

第1章

環境の保全と創出に向けた 課題等の整理

第1章では、瑞浪の環境の成り立ちや現状を把握し、将来に向けた課題を整理します。その上で、環境まちづくりの方向性を導き出します。

瑞浪市における環境の現況を整理し、環境の保全と創出に向けた課題を整理しました。

環境の項目は、自然環境、社会環境、生活環境、エネルギー利用・循環・保全活動、市民の意識の5つに分類し、各項目の課題は1.1～1.5に整理し、各項目の重点課題をまとめました。また、1.6として地区別の現状と課題について整理しました。

- 1.1 自然環境：地形・地質、河川・湖沼、生物、自然災害
- 1.2 社会環境：歴史・沿革、人口、産業、土地利用、法規制指定状況、交通、公園・緑地、上下水道、廃棄物、文化財、祭り・伝統芸能、観光・レクリエーション、景観、国際交流
- 1.3 生活環境：大気質、水質、騒音、振動、悪臭、公害苦情
- 1.4 エネルギー利用・循環・保全活動：リサイクル、電力利用、水道利用、水循環、環境保全活動、環境教育、環境美化
- 1.5 市民の意識：環境の現状、環境問題の認識、環境保全の取組みなど
- 1.6 地区別の現状と課題

1.1 自然環境

項目	現況（問題点・特徴等）	課題
地形・地質	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鬼岩に代表される奇岩地形がある。 ・ 屏風山等の特徴的な地形が見られる。 ・ 新第三紀層に含まれる多様な化石群がある。 ・ 東濃丘陵地帯と総称される丘陵地形を形成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境教育への活用 ・ 特色ある地形保全
河川・湖沼	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の中心部を土岐川が貫流している。土岐川、小里川を主体に護岸整備が進んでいる。 ・ 大きな自然の湖沼は少ない（人工湖：松野湖、竜吟湖、日吉防災ダム湖等とため池） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多自然型河川の整備促進 ・ 水とのふれあい空間としての河川や池の活用
生物	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 17 年から 19 年度の市内全域を対象とした生物調査で、魚類 26 種、両生類 15 種、爬虫類 10 種、鳥類 145 種、哺乳類 57 種、植物 1,212 種、節足動物約 1,120 種、貝類 25 種が確認されており、絶滅危惧種等の生息も多数確認されている（『瑞浪市の生きものたち』瑞浪市教育委員会、2008 年）。 ・ 市内の山地部は、アカマツ・モチツツジ群集とコナラ群落を主体とする二次林で、いわゆる里山と称する樹林地で占められ、西部の土岐市寄りの山地にはクロマツ植林が多く、市域南部には、スギ・ヒノキ植林地が多くなっている。また、周伊勢湾要素植物群と呼ばれる湿地に特徴的な植物群も分布しており、ヒトツバタゴ・ハナノキの自生地が天然記念物に指定され保護されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定年的な動植物相調査の実施 ・ 貴重な動植物の保護と管理など生物多様性の確保 ・ 里山（落葉樹林）水域環境の保全 ・ 身近な生き物の保全
自然災害	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近年はいわゆるゲリラ的豪雨の発生に伴い、日吉町、釜戸町、陶町等において、河川氾濫や法面崩壊等の災害が発生している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 流出量の抑制と流下能力の増加

1.2 社会環境

項目	現況（問題点・特徴等）	課題
歴史・沿革	<ul style="list-style-type: none"> ・古くから「焼きもの」の産地として知られる。 ・中山道の宿場「大湫宿」や「細久手宿」、「一里塚」等が残っている。 ・中山道、中馬街道などと呼ばれる道筋がある。 ・土岐氏（美濃源氏）の領国として文化が栄える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性を活かした独創的なまちづくり
人口	<ul style="list-style-type: none"> ・核家族化、少子化、高齢化が進行している。 ・近年人口は徐々に減少の傾向を見せている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口の動向に応じた住環境の整備及び都市アメニティの形成 ・新旧市民の交流促進
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・産業は陶磁器製造が中心（小規模事業所が多い）である。 ・クリエイション・パークを中心として新たな企業が立地する。 ・農、製造業従事者の減少、サービス業従事者の増加がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体での環境配慮への取組みの推進 ・経営基盤の弱い中小企業の環境配慮への取組みの支援
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・総面積に対する林野面積は7割以上である。 ・土岐川が市街地の中心部を流れているが、ブロック張りなどで川への接近性が損なわれている。 ・ゴルフ場、別荘地が里山地域に見られる。 ・農用地、林野面積の減少、宅地・道路面積が増加している。 ・中心市街地での商業が衰退している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良好な環境の森林や優良農地の保全 ・土岐川の水辺を都市の潤い空間として活用 ・土岐川の有効活用と親水性の回復 ・住環境及び都市アメニティの形成
法規制指定状況	<ul style="list-style-type: none"> ・市域北端の木曾川沿いと松野湖一帯が飛騨木曾川国定公園に指定されている。 ・農業振興地域の農用地は中央道北側及び JR 沿線、県道 66 号線沿いの小規模な平地を中心に分布している。 ・山地部は保安林や砂防指定を受けているところが多いが、日吉地区の林野は無指定地が多い。 ・竜吟峡一帯は、特別緑地保全地区に指定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良好な樹林地の保全 ・地域の景観を形成し、河川を潤す落葉樹林地の保全
交通	<ul style="list-style-type: none"> ・市道の改良率、舗装率はそれぞれ 58.1%、74.8% で交通混雑が見られる。 ・国道 19 号、恵那御嵩線、多治見恵那線、武並土岐多治見線で道路が混雑している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路混雑の解消、道路の改良・歩道整備による沿道の環境改善（公害防止を含む）

公園・緑地	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画区域内人口一人当たりの都市公園面積は 10.3 m² (平成 23 年度末) である。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・緑化の推進による良好な住環境整備及び都市アメニティの形成
上下水道	<ul style="list-style-type: none"> ・水道普及率は 99.4%(平成 23 年度末) である。 ・汚水処理人口普及率は 78.8% (公共下水道、農業集落排水、合併浄化槽) 下水道普及率は 64.3%、水洗化率は 95.9%(平成 23 年度末) である。農業集落排水事業の処理区域内人口は、1,846 人で水洗化率は 89.1%(平成 23 年度末) である。 ・公共下水道処理区域及び農業集落排水事業以外の区域は合併処理浄化槽の普及が進められているが、処理施設が整備されてない箇所では生活排水が未処理のまま公共水域に放流され水質保全が進んでいない。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・公共水域 (地下水含) の水質汚濁防止及び水源の保全 ・下水道普及率の向上と水洗化の促進
廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> ・瑞浪市民 1 人当たりのごみ量は平成 23 年度で 708g/日 (259kg/年) となっている。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量化の推進
文化財	<ul style="list-style-type: none"> ・指定文化財 95 件 (国指定 3 件、県指定 19 件、市指定 68 件、国登録有形文化財 5 件) がある。 ・「鬼岩」、「明世化石」で代表される自然物を対象とした天然記念物が多い。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・天然記念物の保護と (観光資源としての) 活用
祭り・伝統芸能	<ul style="list-style-type: none"> ・瑞浪美濃源氏七夕まつり、半原操り人形浄瑠璃、地歌舞伎、獅子舞など各地に特徴のある祭りや伝統芸能がある。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能の継承と伝統行事を活用した市民交流の促進
観光・レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ・観光消費額や観光客が減少している。 ・訪問者が多いのは鬼岩公園、ゴルフ場である。 ・その他様々な観光施設を保有している。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・観光における環境負荷の低減
景 観	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな景観資源がある。(森林、川、奇岩、里山景観) ・「大湫宿」、「細久手宿」等の歴史的景観資源を保有している。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンツーリズム等の新たな観光のあり方の検討と交流 ・良好な環境の森林や優良農地の保全 ・土岐川の有効活用と親水性の回復 ・良好な観光資源の保全や緑化整備等による住環境整備及び都市アメニティの形成 ・景観計画の策定
国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の湖南省醴陵市と友好都市を提携している。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・世界を視野に入れた交流の促進

1.3 生活環境

項目	現況（問題点・特徴等）	課題
大気質	<ul style="list-style-type: none"> ・ディーゼル車の排気ガスが主要な要因である浮遊粒子状物質（細かいカーボンの粉）が環境基準の1時間値（基準 0.20mg / m³）を超える年がこれまでに数回あるのが認められた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な監視の実施
水質 (BOD)	<ul style="list-style-type: none"> ・土岐川のBODの環境基準は2~3mg/l以下であるが、この10年間(平成14年度~23年度)の値は概ね1.0~4.0mg/lであったが、中には基準を超えている測定地点があった。 ・小里川のBODの環境基準は3mg/l以下であるが、この10年間(平成14年度~23年度)の値は概ね1.0~4.0mg/lであったが、中には基準を超えている測定地点があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水質の保全および改善
騒音	<ul style="list-style-type: none"> ・県道上山田寺河戸線において、環境基準(昼65dB、夜間60dB)を超える時間帯がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区において24時間観測の実施 ・通行規制や騒音対策
振動	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な振動調査は行われていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国道19号や中央道沿道における調査の実施
悪臭	<ul style="list-style-type: none"> ・悪臭発生源の大半が事業系となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・悪臭対策の啓発
公害苦情	<ul style="list-style-type: none"> ・この10年間(平成14年度~23年度)の苦情件数は概ね160~200件/年程度で推移しており、不法投棄に関する苦情が一番多くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ不法投棄の対策 ・監視体制の強化

1.4 エネルギー利用・循環・保全活動


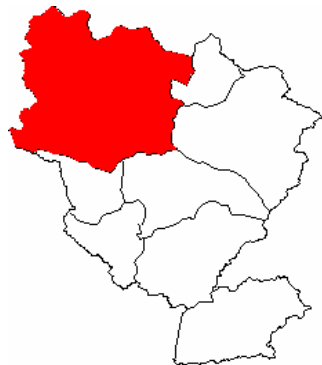
項目	現況(問題点・特徴等)	課題
リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ・H12年9月から、市内全域で食品トレイの回収が開始された。 ・H11年度から金属資源ごみ及び古紙の持ち込み分の資源化を開始している。 ・H23年度の家庭ごみに占めるリサイクル率は23.4%で、集団回収による資源回収の占める割合が高い。 ・資源のリサイクルに関して、多品目の取組みを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資源リサイクルのさらなる推進 ・ごみの減量化促進と資源化率の向上
電力利用	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度に瑞浪市地球温暖化対策実行計画を策定した。この計画により節電を推進し、温室効果ガスの削減に取り組んでいる。平成23年3月11日東北大震災後の電力逼迫に備えて、市民に節電の取組みをホームページで紹介している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらなる節電の促進
自然エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化防止に努めるため、太陽光発電などの自然エネルギーの積極的な利用を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金制度の充実による太陽光発電システムの普及
水道利用	<ul style="list-style-type: none"> ・一人当たりの水道使用量は、減少傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・節水の推進
水循環	<ul style="list-style-type: none"> ・雨水利用及び雨水浸透施設の整備は進んでいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雨水利用による節水 ・雨水浸透施設の整備による流出の抑制
環境保全活動(市民)	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、組織立った市民の環境保全活動は少ない。 ・任意団体や各自治会へのごみの出し方出前講座が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の環境活動の啓発を行う市民の情報交換の場の整備
環境保全活動(行政)	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な助成や補助金の制度がある。 ・毎年、「環境フェアみずなみ」を開催している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民への効果的な情報伝達と利用の促進
環境教育	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校とも総合的な学習の時間を中心に環境教育が実施されている。 ・ごみの分別やリサイクル、地域美化など実践的な教育が、学校を中心に進められている。 ・全ての小中学校でホームページが整備されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園から中学校までの体系的総合的教育の推進 ・地域の環境を活かした教育の推進 ・インターネットによる学習成果の発信
環境美化	<ul style="list-style-type: none"> ・草花による沿道美化が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・沿道美化の推進

1.5 市民・事業者の意識（アンケート調査結果）

項目	現況（問題点・特徴等）	課題
<p>(1) 市民 環境の現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境については概ね満足度が高く、住みやすいと感じている人が多い。 ・水質やごみのポイ捨て、不法投棄に対する不満は高い。 ・自然とのふれあいやレクリエーション空間（スポーツ施設、公園、緑地）大型商業施設が少ないと感じている人が多い。 ・近年減少している動植物や絶滅危惧種が報告される一方、外来生物の報告が目立つ。 ・交通が不便と感じている人は4割で、公共交通機関のルートや時刻表の改正を望む声が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の自然環境の維持と保全 ・水質浄化対策の促進 ・公園、緑地等の整備促進 ・貴重な生物の生息情報の確認 ・動植物生息環境の保護 ・コミュニティバスの充実
<p>環境問題の認識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題への認識は非常に高い。 ・地球温暖化とエネルギー問題への関心が強い。 ・身近な環境悪化の原因は、排水や廃棄物、ごみの不法投棄、自動車交通の増加とする意見が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ、省資源、リサイクルの促進 ・監視観測体制の強化
<p>環境保全の取組み（市民）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手間やお金のかかる取組みはあまり実施されていない。 ・市民の外出時での配慮では、アイドリングストップの実施率が約6割、公共交通機関利用の実施率は3割弱である。 ・リサイクル実践活動の実施率が高い。 ・環境保全活動の参加率は低く、その主な原因は時間不足と情報の乏しさである。 ・子ども（小学生）も環境への関心は高く、多くの子どもがごみの分別やリサイクル、節電や節水等を実行しているが、緑化・清掃活動にはあまり参加していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・助成等の充実と情報提供による利用の促進 ・環境にやさしい行動を進めるインフラの整備 ・リサイクルの徹底による回収率の向上 ・活動情報の発信と活動グループのネットワークの形成 ・廃食油の回収ルートとシステムの確立
<p>環境保全の取組み（行政）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な取組みが行われているが、市民の認知度は低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な情報伝達方法の検討
<p>環境保全の取組み（要望）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄の防止が際立っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄対策の推進と監視体制の強化
<p>望ましい環境像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい町のイメージは豊かな自然が身近にあり、安全で安心して暮らせるまちであり、水辺がきれいな川で高齢者や障がい者にやさしいまちづくりへの期待が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境保全を前面に出した環境像の設定 ・市民協働と人づくりに重きを置いた環境像の設定

項目	現況（問題点・特徴等）	課題
<p>(2) 事業者 環境配慮への 考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所周辺や市内の環境についての関心は高く、環境への配慮は企業の社会的な責務とする事業所が全体の6割強を占め、社会情勢・顧客ニーズ・イメージアップ・コスト削減等の面から取組みが必要と考えている事業所は多いが、実際に取組んでいる事業所は少ない。 ・市民から期待されていると感じる主な取組みは、「ごみの適正な処理」、「水や電気などの省エネ活動」、「公害対策」である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経営基盤の弱い中小企業への行政の支援
<p>環境保全の 取組み (事業者)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に関連した活動を積極的に取組みたいと考えている事業所は少ない。 ・節電、節水、環境美化、地域活動など設備投資のかからない取組みは盛んである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3者協働での環境保全 ・助成制度の創設 ・グリーン購入の推進
<p>環境マネジメントシステム について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ISO14001」、「エコアクション 21」ともに関心は低く、関心はあっても取得準備には至らない事業所が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中小事業所でも取得しやすい方法の確立 ・行政支援の必要性
<p>行政施策への 期待</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全に関する情報提供、ガイドラインの提示、公的融資や補助金、グリーン購入の推進、市民・事業者・行政の協働体制の確立を望む声が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供の拡充と地域と事業者を結びつける仕組みの確立
<p>市民からの 期待</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者が市民から期待されていると感じていることは「ごみの適正な処理に関する取組み（ごみの減量化・資源化の推進など）」と回答した事業所の割合が高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者による環境保全活動の推進

1.6 地区別の現状と課題

<p>(1) 日吉地区</p>  <p>鬼岩紅葉</p>	<p><地区データ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区面積：5,422ha ・地区人口：2,886人（平成23年） ・人口密度：0.5人/ha <p>市で最も大きな面積の地区です。里山、田園、集落のほか、貴重な植物自生地、優れた景観、中山道宿場町の細久手宿など、多様な歴史的・環境的財産があります。畜産施設やレクリエーション施設との関わり方が大きな課題となっています。</p>	<p>日吉地区位置図</p> 
--	---	--

日吉地区の環境の現状と課題

地区の面積が広く多様な歴史的・環境的財産を持つ地区です。

- ・地区の大半を山林が占めており、その中にはヒトツバタゴ自生地やシデコブシ自生地が見られ、深沢峡の近辺ではシャクナゲ自生地やクマガイソウ自生地も見られます。また、中山道沿いの弁財天の池には、貴重な水生植物や昆虫類が数多く生育・生息しているなど、これらの貴重な自然環境については、積極的に保全していく必要があります。
- ・鬼岩公園、松野湖など、優れた景観を生かした観光資源があります。これらは瑞浪市を代表する資源でもあることから、住民の協力を得ながら保全・活用を図る必要があります。
- ・瑞浪市の中で最も地区面積が広く、その中にいくつもの農村集落が形成されています。環境保全活動を進めるには、住民全員の合意形成に向けた目標が必要です。
- ・飛騨木曾川国定公園においては、平成23・24年度で県補助を受けて鬼岩公園整備事業を行っており、PRにおいても鬼岩観光協会が積極的に行っていますが、組織の構成員の減少・高齢化への対応が今後の課題となっています。

中山道の宿場町「細久手宿」は地区のシンボルとなり得る集落景観です。

- ・細久手宿は伝統的な建造物が点在しており、大湫宿と並ぶ中山道の宿場町ですが、古い町並みは過疎化等により失われつつあります。この町並みを保全するとともに、周辺の景観にも配慮することによって、宿場町にふさわしい歴史的景観を創出する必要があります。

環境保全上の改善対策が推進されています。



- ・日吉地区には大規模な畜産施設や大きな排気音を伴うサーキット施設があり、これらの施設から発生する悪臭や騒音に関しては、地元住民から苦情が寄せられていました。市はこの間、岐阜県畜産研究所及び東濃家畜保健衛生所と連携し、臭気測定、水質検査など大規模養鶏場への指導を定期的に実施することにより、改善対策を推進しています。

また、騒音についてはサーキット場の環境基準が設けられていないため、随時騒音測定を実施しています。

- ・日吉地区は、山間部が多く、地区全域において不法投棄をする人が後を絶たず、特に中山道沿いや道路から少し山中に入った地域では不法投棄が目立ちます。そのため、中山道の魅力向上と合わせ

て、ゴミの不法投棄に対する監視体制の強化を図る必要があります。市では平成 19 年 1 月より不燃ごみの有料化を開始しましたが、有料化に伴う不法投棄防止のための継続的な監視が必要です。

- ・農業集落排水事業の日吉南部地区の平成 23 年度末現在の処理区域内人口は、1,039 人で水洗化率は 87.3%です。

<h2>(2) 大湫地区</h2>  <p>大湫宿</p>	<p><地区データ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区面積：864ha ・地区人口：394人（平成23年） ・人口密度：0.5人/ha <p>大湫集落を中心とした山間地域です。中山道の宿場町としての歴史をもち、里山と田園が生活域と密接に結びついた地域です。豊かな自然環境が良好に保たれています。</p>	<p>大湫地区位置図</p> 
--	--	--

大湫地区の環境の現状と課題

市内では最も良好な自然環境が保全されています。



- ・ホテルをはじめ、貴重な動植物が地域一円に分布しています。これらの貴重な自然環境は地域ぐるみで保全していく必要があります。
- ・大湫地区では良好な里山が豊かな水源となっています。この水源をつくる里山を十分に管理、育成していく必要があります。
- ・大湫地区には美しい田園が広がっています。この田園は生産基盤だけでなく、多くの動植物の宝庫、自然の洪水調整の役割も担っています。住民の協力により保全を図る必要があります。
- ・農業集落排水事業の大湫地区の平成23年度末現在の処理区域内人口は、142人で水洗化率は94.4%です。

住民が率先して自然を管理しています。

- ・地域の北部に広がる山林を水源かん養林として利用することが、永く地域の約束事となっています。この住民が定めた土地利用の考え方を後世に受け継ぐ必要があります。
- ・地域ぐるみで自然とのふれあいの場を整備し、管理しており、地域の誇りとして住民参加型の環境への取組みを受け継ぐ必要があります。

瑞浪市を代表する史跡「中山道」に関わる歴史的町並みがあります。

- ・大湫集落には古い町並みが保全されており、広く知られています。この町並みを永く後世に残す必要があります。
- ・中山道の整備区域（東海自然歩道・歴史の道）は、地元まちづくり組織、個人等が日常的な環境整備を行っています。現在、歴史の道整備事業において整備した大湫～釜戸町内の中山道の一部の区間を、国の史跡指定に向けて申請準備中です。
- ・大湫宿・細久手宿の環境保全においては地元保全団体が主体的に実施しており、中山道ボランティアガイドの会の発足により観光ガイドを実施しています。また、国の登録有形文化財として保々家住宅主屋、ほか3件が登録されていますが、建物の維持管理の義務が所有者に委ねられることや地元管理団体の高齢化など、登録有形文化財にかかわらず、保全活用上の課題となっています。

<h2 style="text-align: center;">(3) 釜戸地区</h2>  <p style="text-align: center;">釜戸ハナノキ</p>	<p>< 地区データ ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地区面積：3,043ha ・ 地区人口：3,374人（平成23年） ・ 人口密度：1.1人/ha <p>市を代表する観光資源である竜吟の滝、地区内に4つのゴルフ場などをもち、白狐温泉や歴史的な建造物である天猷寺などとあわせて市外から訪れる人の多い地区です。また、天然記念物のヒトツバタゴやハナノキ及びネコギギなどの動植物の生息場所が散在する地区です。</p>	<p style="text-align: center;">釜戸地区位置図</p> 
---	--	--

釜戸地区の環境の現状と課題

天然記念物や貴重な動植物が、地区内一円に分布する豊かな自然環境を備えています。

- ・ 釜戸ハナノキ自生地（神徳区）やヒトツバタゴ自生地（宿区）が国の天然記念物の指定を受けています。その他、竜吟湖周辺には、シデコブシの群生地を含む湿地、地区東部にもヒトツバタゴの大木、シデコブシの群落が散在しています。また、早春に羽化するギフチョウの採蜜植物となるカタクリの群落も育成しています。
- ・ 佐々良木川と土岐川では近年、国の天然記念物であり、環境省の絶滅危惧種（IB 類）に指定されているネコギギが発見されるとともに、土岐川では国の特別天然記念物であり、環境省の準絶滅危惧種に指定されているオオサンショウウオの生息も確認されています。また、大久後や論析、神徳などの山間の水田ではホタルやドジョウも見られます。これらの生物は、すべて水域に棲んでいますが、水質の汚染には大変弱く、農薬や家庭雑排水に対しても非常に敏感であるとともに、河川や水路の改修などが生息環境に大きく影響を及ぼしています。今後はこれらの生物が生息する環境を保全していくことが求められます。
- ・ 釜戸地区の観光資源を代表する竜吟峡及び一帯は、花崗岩質の地盤で、散策路沿いに風化した岩石が露出しており落石の危険性が指摘される部分もあります。このような場所の安全性を確保し、人々が安心して利用できる空間整備が必要です。このためには、地盤調査を行い、周辺景観を阻害しない落石防止対策を講じることが求められます。
- ・ ネコギギは、生息地が東海三県のみで、近年数が激減しているため、乱獲の防止や生息環境の保護を地域ぐるみで取り組む必要があります。
- ・ 釜戸地区では、これまで竜吟峡の修景やドラゴン 21 の設置など、地域をアピールする取り組みを、まちづくり推進協議会が中心となって地区の活性化を進めています。今後は地域の人々が環境保全活動の輪を通して、住民相互の連帯感のさらなる醸成を目指し、強力かつ効果的な地域環境づくりを推進していくことが望まれます。
- ・ 地区のシンボルともいえる竜吟峡は特別緑地保全地区として森林環境の保全が図られています。竜吟湖は、上流の大湫地区と一体となった水質浄化対策を講じる必要があります。
- ・ 地区内の公共下水道の計画は進められていますが、河川へ流入する生活雑排水の水質を向上し、河川水質の保全を図るため、公共下水道整備の早期完成及び公共下水道整備事業区域外の地域では、合併浄化槽の普及を推進していく必要があります。

ごみのポイ捨てや不法投棄が問題となっています。

- ・釜戸地区は、ゴルフ場開発や別荘開発などにより、森林地域へのアクセス性が良くなっています。別荘地などでは、景気の低迷により、開発が途中で終わってしまい、不法投棄の温床になりかねない状況の地域もあります。また、県道 66 号の沿線では、通過する車からのごみのポイ捨てが問題となっています。今後は官民一体となって、こうしたごみの不法投棄撲滅への取組みを展開していく必要があります。また、産業廃棄物処分場などからの排水についての取組みも必要です。

地元農産物を使った郷土料理の開発と普及において、まこもたけを活用した加工品開発に取り組んでいます。

(4) 土岐地区



櫻堂薬師

<地区データ>

- ・地区面積：2,163ha
- ・地区人口：6,373人（平成23年）
- ・人口密度：2.9人/ha

J R瑞浪駅に近い西部の市街地から、土岐川沿の農村集落及び大久手や大草といった山村集落まで様々な要素を含んだ地区です。国道19号沿いには、鶴ヶ城など土岐氏（美濃源氏）にまつわる史跡等が多数あり、櫻堂薬師は地域のシンボルとなっています。

土岐地区位置図



土岐地区の環境の現状と課題

J R瑞浪駅周辺では、住宅開発や土地区画整備事業による市街化が進んでいます。

- ・学園台や益見などの既設の住宅や一日市場など今後整備が進められる地域では緑地の保全や創出、丘陵地の景観保全等により良好な住環境の形成が求められます。
- ・駅周辺の魅力ある中心市街地の形成にむけて、沿道の緑化や修景、活用を図っています。
- ・今後、市街化が進む中、公共下水道計画区域内では公共下水道が整備済みとなっていますので、公共下水道計画区域外では合併処理浄化槽などの普及による水質保全対策が必要です。

土岐氏（美濃源氏）ゆかりの史跡や遺跡が数多く残されています。

- ・櫻堂薬師や鶴ヶ城跡などの文化財をはじめ、かつて、土岐氏が館を構えたと伝えられる一日市場館跡（八幡神社）、岐阜県の史跡に指定されている土岐頼貞墓などの土岐氏ゆかりの史跡や遺跡が多数残されていますが、それらを知る市民が少なくなっています。今後は、これらの歴史的文化的財産を地域住民が守り、継承しながら、地域の活性化に役立てることが必要です。

山間地域には豊かな山林とどかな山村風景が残されています。

- ・土岐川支流の数々の河川にはホタルが住み、地区の中央部や屏風山一帯には落葉樹を主体とする里山林（保安林指定）が広範囲に残されているとともに、大久手区、大草区等には郷愁を誘う山村景観が展開しています。これらの里山は河川を潤す自然のダムであるとともに、動植物の生息・生育環境として重要な役割をもっています。また、私たちの心を癒してくれる美しい山村景観は瑞浪市の財産として、永く保全していく必要があります。
- ・地区内には、ムササビや双生竹（県指定天然記念物）などの貴重な動植物が見られる里山やホタルやタニシ、モリアオガエルなどの身近な自然の豊かさのバロメーターといえる生物が生育する水田や池があります。地区を東西に流れる土岐川の桜堂・市原区から木暮・清水区にかけての一角が「水辺の楽校」として活用され、豊かな水辺環境も残されています。このような多様な動植物の生息・生育できる環境をいつまでも保全していく必要があります。

(5) 明世地区



市民公園

<地区データ>

- ・地区面積：873ha
- ・地区人口：1,566人（平成23年）
- ・人口密度：1.8人/ha

明世地区には中央自動車道路瑞浪ICがあり、自動車で市外から訪れる観光客等のメインゲートとなっています。明世地区には良好な山林、集落、田園地帯の農村の顔と、国道19号沿道の市街地のまちな顔があります。

明世地区位置図





明世地区の環境の現状と課題

開発により居住環境が大きく変化する地区です。

- ・瑞浪IC、国道19号など道路交通のポテンシャルが高く、地区内では新たな開発の可能性が高い地区です。大型車の通過の増加を住民も感じています。
- ・インターチェンジ周辺には瑞浪市民公園、化石博物館などが整備され、緑の豊かな印象のある地域景観が形成されています。
- ・本地区には、独立行政法人 日本原子力研究開発機構 東濃地科学センターの施設があります。この施設からの排水については、岐阜県、市との環境保全協定により自主測定を行い、環境基準を遵守するようしています。

地区の中央部では良好な自然環境と人々が共生してきた風景が見られます。

- ・地区の中央部を南北に日吉川、地区の南側には土岐川が流れ、田園が広がり、山裾に集落が構成され、集落の背後は里山が占め、美しい風景を見せています。これらの風景を地域が一丸となって保全していく必要があります。
- ・明世地区は、ほぼ全域が岐阜県の天然記念物「明世化石」の指定区域となっています。土岐川の河川敷では実際に化石採集を行う事が出来るなど、自然学習の場としても計画的に保全・活用を図ることが望まれます。
- ・農業集落排水事業の月吉地区の平成23年度末現在の処理区域内人口は、665人で水洗化率は85.7%です。

<h2>(6) 瑞浪地区</h2>  <p>バサラパレード</p>	<p>< 地区データ ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地区面積：905ha ・ 地区人口：16,841人（平成23年） ・ 人口密度：18.6人/ha <p>JR瑞浪駅を中心に、商業施設、工場、住宅、主要な公共施設など、様々な都市機能が集積する瑞浪市の中心市街地です。里山や田園が市街地の南側に広がり、まちの中を土岐川が流れています。</p>	<p>瑞浪地区位置図</p> 
--	---	--

瑞浪地区の環境の現状と課題

瑞浪市の中心地としての機能を担っています。

- ・ JR 瑞浪駅前や国道 19 号沿いには様々な商業施設が立地しており、瑞浪市の産業活動の中心地となっています。また、市の主要な公共施設である市役所があり、環境保全活動の中心地としての機能も担っています。

地域のコミュニティが変わりつつあります。

- ・ 新旧住民のライフスタイルの違いにより、ゴミの出し方をはじめ様々な問題が生じています。コミュニティを維持し、地区の調和のあるまとまりを強化するための取組みが必要となっています。

瑞浪市の骨格を形成する土岐川が市街地を流れています。

- ・ 市街地内を流れる土岐川では、河川の氾濫を防ぐための護岸整備が進められています。
- ・ 土岐川の水質はかつてと比べて大幅に改善されてきましたが、生活雑排水や事業系の排水が直接流入している箇所もあり、項目によっては環境基準を上回ることもあり、継続的な調査を行っています。

市街地の背後に緑豊かな里山が広がっています。

- ・ 市街地の南側には里山と田園が広がっており、ここから土岐川に流れ込む河川にはホタルなどもみられます。

(7) 稲津地区



黒の田東湿地

<地区データ>

- ・地区面積：2,184ha
- ・地区人口：5,048人（平成23年）
- ・人口密度：2.3人/ha

小里川沿いの小里地区と萩原川沿いの萩原地区に大きく2分され、小里地区の南側にあたる小里城跡を中心とした一帯はスギヒノキ植林やコナラ等の落葉広葉樹林の広がる森林地域となっています。萩原地区は、屏風山とその山麓及び萩原川沿いの水田地帯からなるのどかな農村地域となっています。

稲津地区位置図



稲津地区の環境の現状と課題

地区東部の屏風山稜線一帯には豊かな自然と山麓にはのどかな里山の風景が広がっています。



- ・瑞浪市の最高峰である屏風山からつづく、700m前後の山稜には湿原（黒の田東湿地）が形成され、貴重な動植物の生息・生育場所となっているとともに、山麓は落葉樹を主体とする里山が広がっており周辺の農地とともにのどかな農村景観を形成しています。今後は地域の活性化を図るうえで林道や農道のネットワーク化により、森林レクリエーションや自然学習の場として、里山や屏風山の活用を図っていくとともに貴重な自然環境の保護を図ることが必要です。
- ・地区を縦貫する小里川は河川改修が進んでいます。

地域での取組みが盛んです。

- ・地区内には、「明日の稲津を築くまちづくり推進協議会」が設立され、環境保全活動を実施しています。その他、黒の田湿地愛好会、山野草の会、文化財を守る会、小里城顕彰会などによる小里城山城跡の整備、ササユリの保護を行うなど、地区の人々が団結して、地域ぐるみで行動を起こすパワーをもっています。

瑞浪市の一般廃棄物最終処分場は本地区にあります。

- ・市の一般ごみを埋め立てる不燃物最終処分場は小里地区の羽広にあり、現在第3期目の埋め立てを行っています。

<p>(8) 陶地区</p>  <p>世界一のこま犬</p>	<p>< 地区データ ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地区面積：2,046ha ・ 地区人口：4,055人（平成23年） ・ 人口密度：2.0人/ha <p>市の南端に位置し、中馬街道を中心に発展してきた地区です。中心市街地から離れた地形条件もあり、陶独特の文化を形成しています。本市の窯業発祥の地でもあり、伝統と歴史を大切にしています。</p>	<p>陶地区位置図</p> 
--	---	---

陶地区の環境の現状と課題

中馬街道と窯業を中心に発展してきた地区です。

- ・ 名古屋と信州飯田を結ぶ商いの道であった中馬街道沿いには、今も多くの石造物が残っており、陶の人々にとってなじみ深いものとなっています。これらの石造物を地域の誇りとして永く後世に継承する必要があります。
- ・ 陶の名が示すように、市の窯業発祥の地であり、かつての古窯跡は現在も随所に残されています。近年の不況の中でも伝統的地場産業の火を灯し続けており、近代窯業に使用されたレンガ煙突や小里川ダムなどの近代化遺産も散在しています。こうした産業の歴史を後世に残すとともに、工場の跡地を新たな目的に活用することが必要です。

瑞浪市の南端に位置し独自の文化を形成しています。

- ・ 陶は独自の文化を形成しており、地区の歴史や伝統の保全、地区の魅力を創出する取組みを進めています。このような自らの手で自主的に環境を保全するという姿勢を継承していく必要があります。
- ・ 陶町明日に向けて街づくり推進協議会を中心に地域住民の創意によって、ギネスブックに登録された世界一のこま犬、茶つぼを生み出し、また、少子高齢化の進む中、宅老所を他町に先駆け設置するなど、地域に住む子どもやお年寄りが快適で安全に暮らせる環境づくりを推進しています。
- ・ 国道 419 号及び 363 号等の沿道では、ポイ捨てやゴミの不法投棄などが問題となっており、特に、地区を通過する人々に、ポイ捨て禁止を呼びかけていく必要があります。

森林の湧水から流れる美しい水を利用しています。

- ・ 湧水・滝などの美しい水が随所にみられます。これらの水辺環境に生育・生息する生物を地域ぐるみで保全していく必要があります。
- ・ 地区の森林が育んだ水を、農業用水として利用しています。水の循環に気を配り、水源地や森林を大事にする考え方を育て伝えていく必要があります。